

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

本日（10日）10時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引き下げ、火口周辺警報を解除しました。

- 雌阿寒岳では、2008年11月30日以降噴火は発生していません。火山性地震の発生状況は1月下旬以降概ね低調に推移し、火山性微動は3月19日以降発生していません。また、噴煙活動も次第に低下しています。4月7日に陸上自衛隊第5旅団の協力により行った上空からの観測ではポンマチネシリ96-1火口の状況に特段の変化はありませんでした。雌阿寒岳の火山活動は落ち着いた状態となっており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなりました。
- 火口内では引き続き噴気活動が続いており、今後も火口内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性がありますので、火口内や近傍では火山ガスや火山灰噴出に対する警戒が必要です。

○ 活動概況

雌阿寒岳では、2008年11月9～12日にかけて体に感じない程度の小さな火山性地震が増加し、16日には振幅が小さく継続時間がやや長い火山性微動が発生しました。さらに、17日10時05分頃から火山性の連続微動が発生したことから、火山活動がやや高まった状態と考えられ、17日14時30分に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。

11月18日及び28日から29日にポンマチネシリ96-1火口、同第4火口でごく小さな噴火が発生した他、これらの火口の噴煙活動がやや活発な状況で推移し、火山性微動も断続的に発生するなど、雌阿寒岳の火山活動はやや高まった状態で推移しました。

12月16日には、噴火警戒レベルの導入に伴い、火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表しました。

その後、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態で推移しましたが、2009年1月下旬以降減少傾向となり、4月に入ってから一日当たり数回以下まで減少し、地震活動は概ね低調に推移しています。火山性微動の回数も次第に減少し、3月19日以降は発生していません。

また、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙活動にも次第に低下傾向が見られ、3月以降は火口縁上の高さ概ね100m～200mで推移しています。噴火前の静穏な時期と比べると依然やや活発ですが、噴出の勢いは弱まっています。赤沼火口、北西斜面06噴気孔列、中マチネシリ火口の噴煙の高さは火口縁上概ね100m以下で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

4月7日に陸上自衛隊第5旅団の協力により行った上空からの観測では、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙は白色で勢いも弱く、火口の状況にも特段の変化はありませんでした。

GPS連続観測では、2008年10月初め頃よりやや広域の地殻変動が認められていますが、浅部の膨張を示す地殻変動は認められていません。

以上のことから、4月10日現在、雌阿寒岳の火山活動は概ね落ち着いた状況となっており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったことから、噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引き下げ、火口周辺警報を解除しました。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 50000（地図画像）』を使用しています（承認番号 平20業使、第385号）。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数 (図 8 の B 点) * 2009 年 4 月の地震回数は 9 日まで

2008~2009 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
地震回数	21	15	19	17	1699	512	795	563	1781	1277	618	28
微動回数	0	0	0	0	0	2	14	3	24	12	2	0

- ・ 2009 年 1 月、2 月、3 月、4 月の回数は暫定値であり、後日修正することがあります。
- ・ 2008 年 10 月の火山活動解説資料から過去に遡って深さ 10km 以深を震源とする深部低周波地震を除外しています。このため、以前の資料と地震回数が異なる月があります。

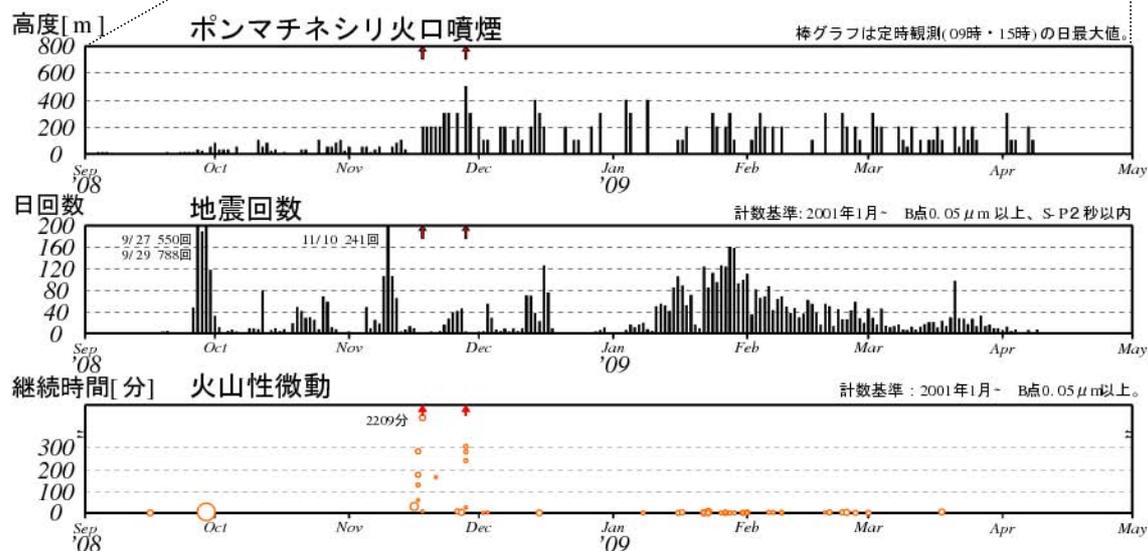
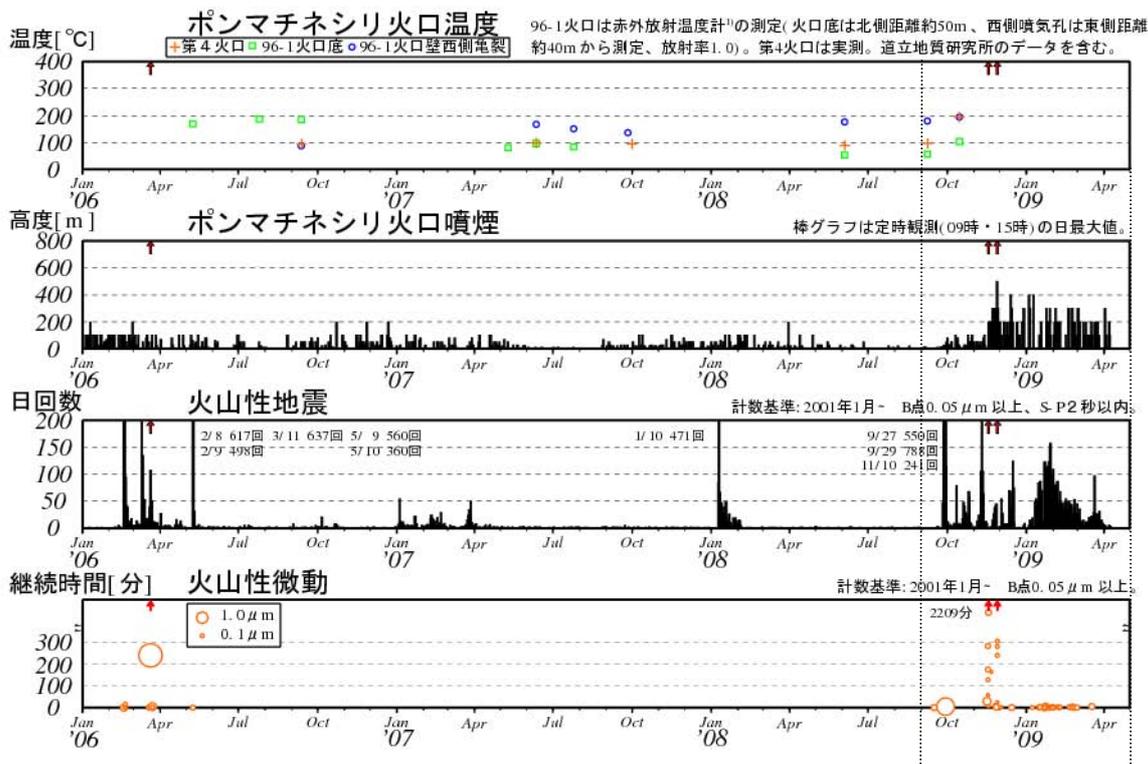


図 1 雌阿寒岳 活動経過図 (2006 年 1 月 1 日~2009 年 4 月 9 日) ↑印は噴火

- ・ ポンマチネシリ火口の噴煙活動は、2008 年 11 月のごく小さな噴火以降、やや活発な状態で推移していましたが、次第に弱まってきています。
- ・ 地震活動は、2008 年 9 月下旬以降、火山性地震は増減を繰り返していますが、2009 年 1 月下旬以降低下傾向が見られます。火山性微動は 3 月 19 日以降発生していません。

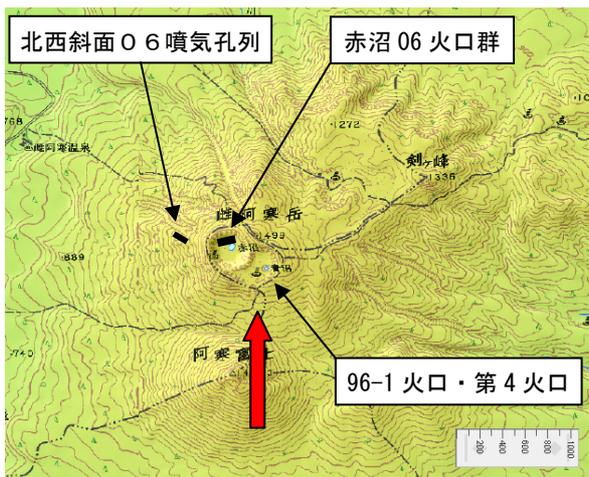


図2 雌阿寒岳 火口配置図



図3 雌阿寒岳 ポンマチネシリ火口の状況
2009年4月7日 図2矢印方向から撮影
(陸上自衛隊第5旅団の協力による)

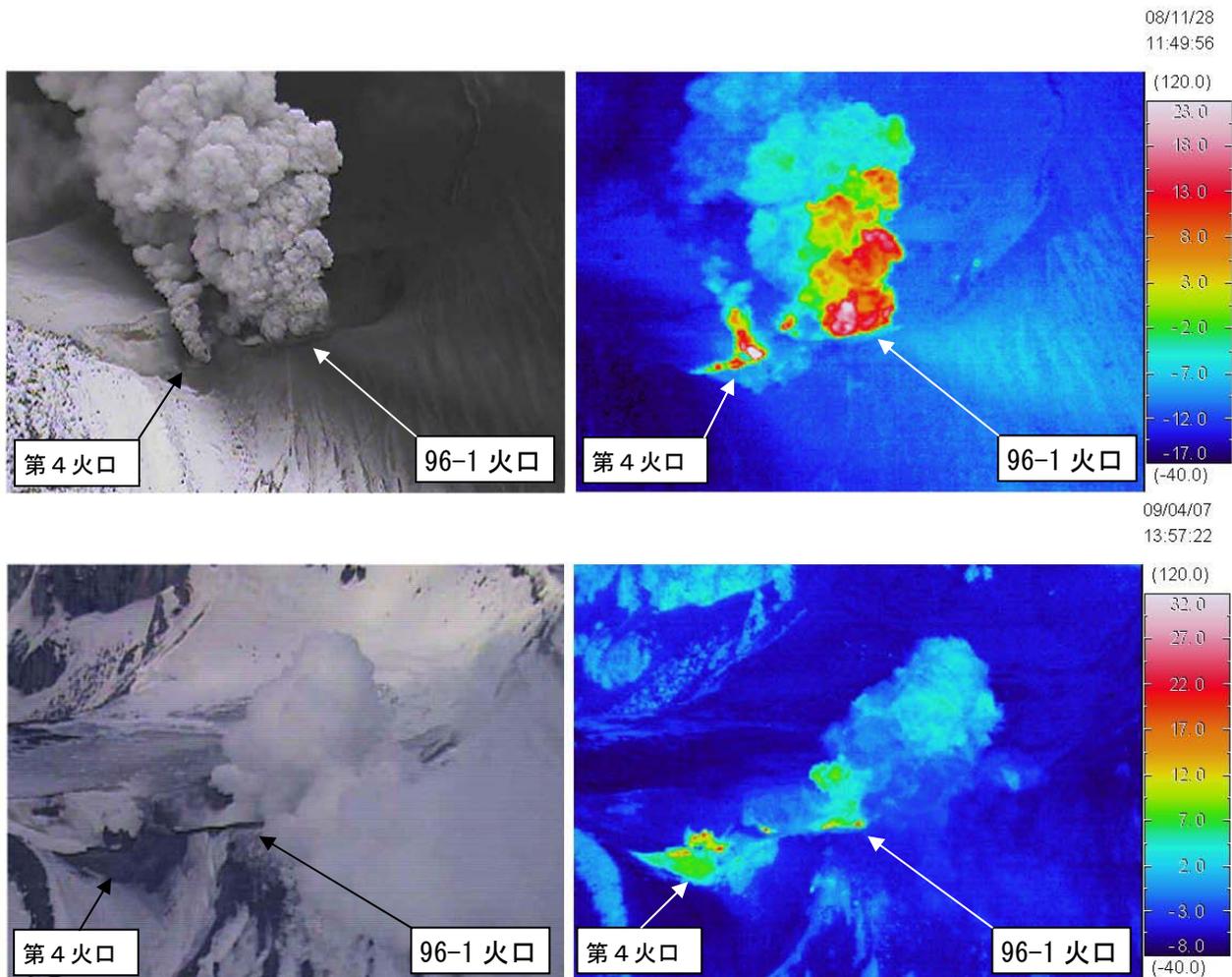


図4 雌阿寒岳 赤外熱映像装置¹⁾による96-1火口及び第4火口の地表面温度分布
図2の矢印方向から撮影 上：2008年11月28日撮影(北海道の協力による)
下：2009年4月7日撮影(陸上自衛隊第5旅団の協力による)

・ ポンマチネシリ 96-1 火口及び第4火口の噴煙及び熱活動は低下しています。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

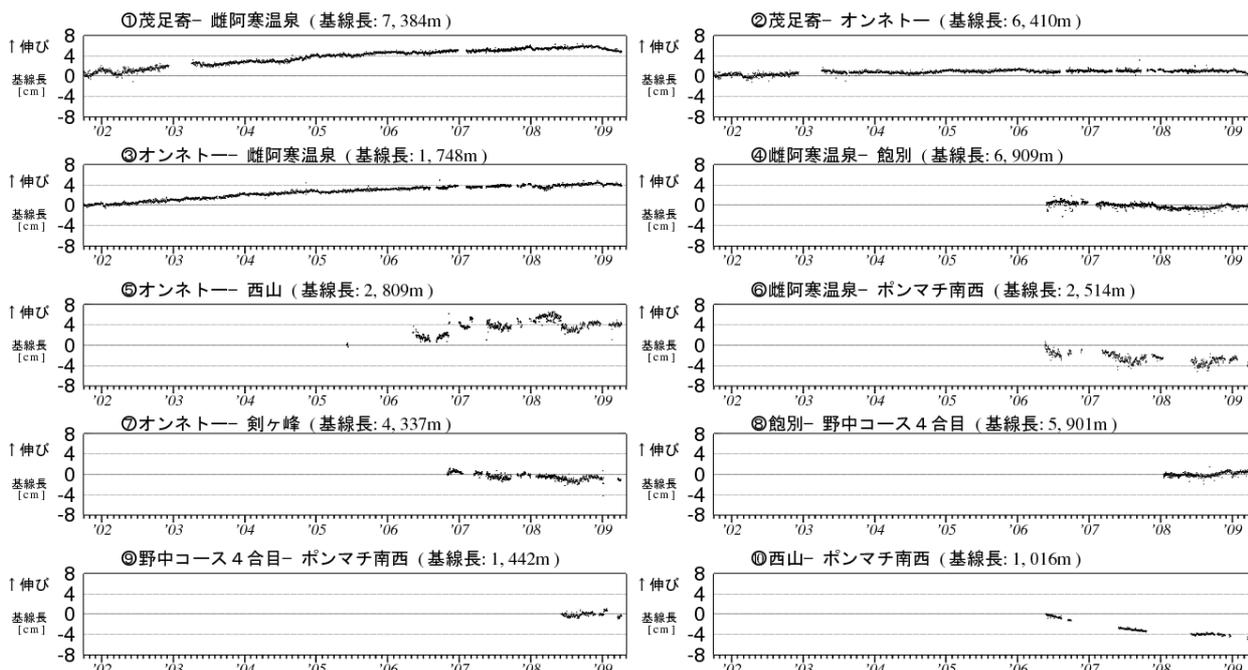


図5※ 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001年10月～2009年4月9日)
 グラフの空白部分は欠測 図5の①～⑩は、図6のGPS基線①～⑩に対応しています。

・雌阿寒温泉-飽別の基線等で、2008年10月頃から若干の変化が観測されています(図7)。

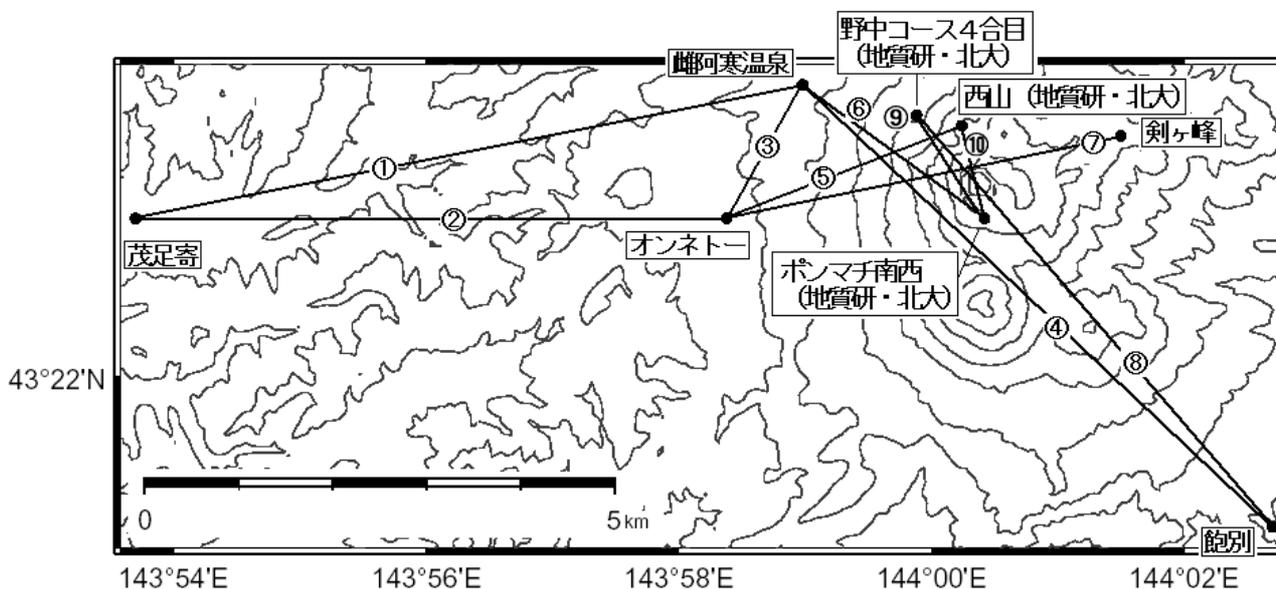


図6 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図

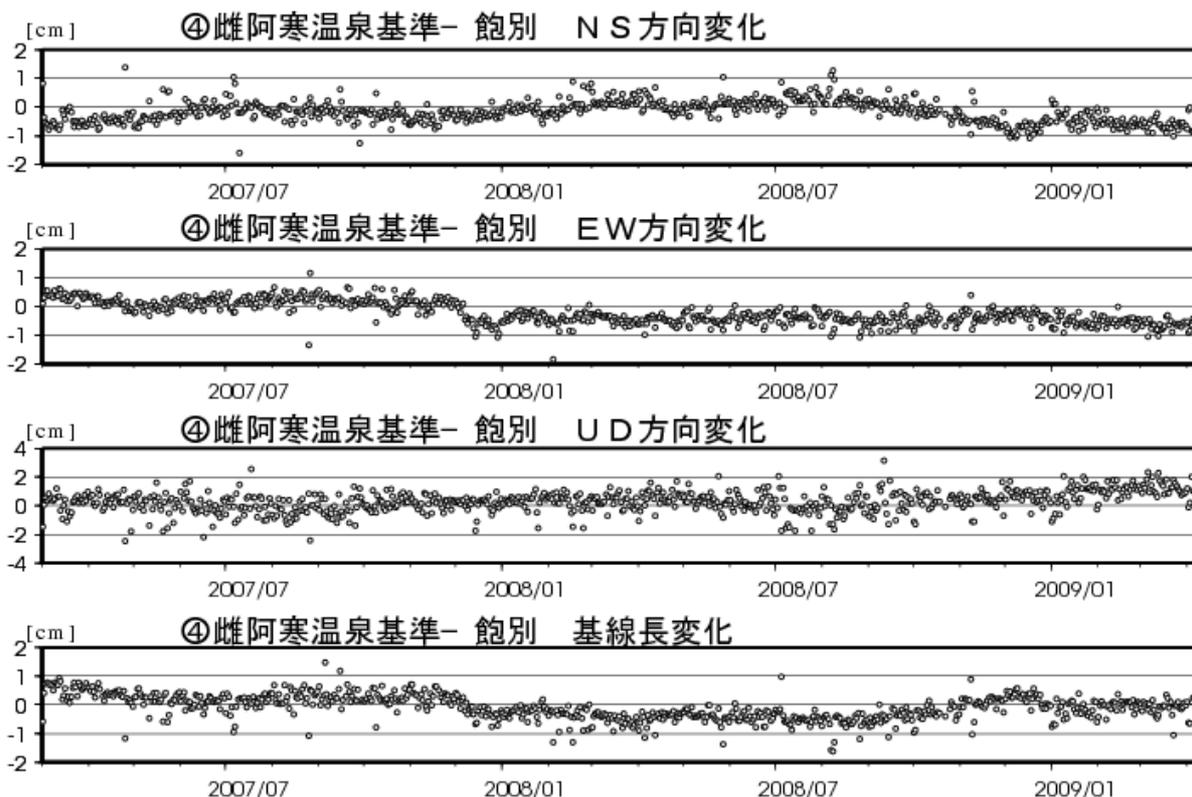


図 7 雌阿寒岳 GPS 連続観測による成分別変化 (2007 年 4 月～2009 年 4 月 8 日)

図 7 は、図 6 の GPS 基線④に対応しています。雌阿寒温泉が動いていないとすると、値が大きいほど、飽別が北、東、上、離れる方向に動いたことを示しています。

UD 方向のみスケールが異なります。

- ・ 2008 年 10 月初め頃から見られた南北方向に伸びる変化は、12 月になり一旦鈍化・反転した後、2009 年 1 月に再び緩やかに伸びる変化を示しています。これらの変化の原因についての詳細は不明です。

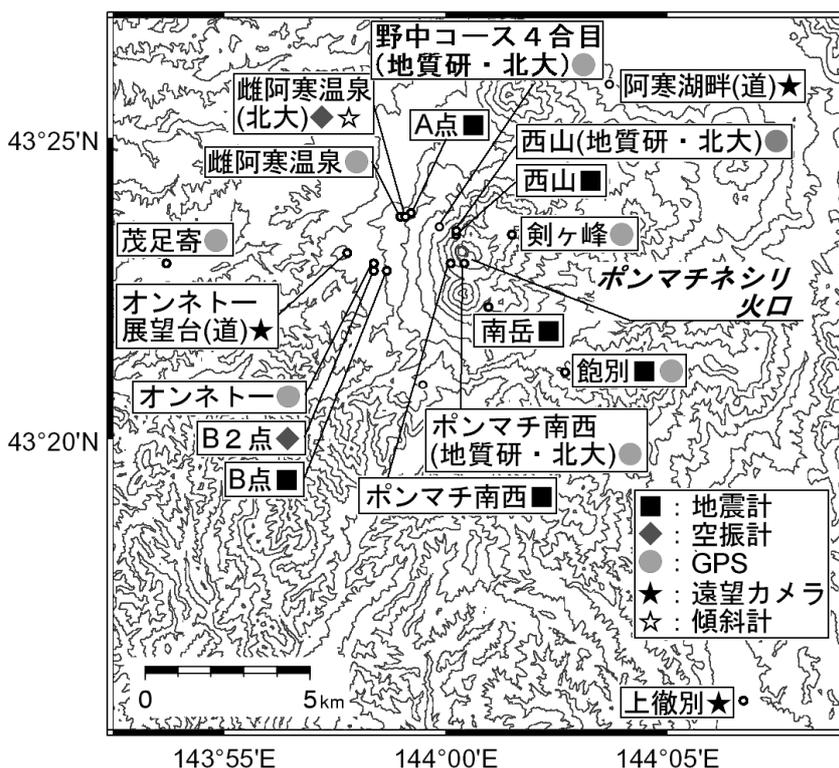


図 8 雌阿寒岳 火山観測点配置図